

「通所リハビリテーションにおけるホームベース型健康支援による心身状況の変化」についてのご説明

長時間通所リハ 利用者さまへ

今回、通所リハビリテーション（以下、通所リハ）にて健康支援の研究を行うことになりました。本研究は、通所リハで健康支援の介入をすることにより心身状態の変化を調査し、その分析を行います。通所リハを利用されている方の健康支援のお役に立てるよう取り組むことを目的としています。

1. この研究がめざしているもの

通所リハでは、病気の予防を図りながら、自分らしく生き生きとした生活が送れるように支援しています。健康を支える方法として、従来より疾病の早期発見・管理を目的とした健康管理する方法がありますが、長期的な改善に繋がりにくいと言われております¹⁾。

今回、ホームベース型健康支援^{*注1}を用い、ご自身で取り組みを選択し、周りがサポートすることで継続した健康支援が行えるかを検討していきます。

*注1：ホームベース型健康支援


自らの生活の場である安心安定した環境の中で、本人自身の内発的な動機づけを尊重し、支援者は本人ができることを支援し、目標達成型で行動変容を行う方法。その方の行動変容のステージに合わせて、行いたいことを選択してもらい、「前向きな態度」、「自己効力感」、「周囲からの支援」を3要素として支援を行う方法。

2. この研究の方法

<スケジュール>

研究倫理委員会承認後から開始します。

1ヶ月（介入前）、3ヶ月（中間）、6ヶ月（介入後）、9ヶ月（3ヶ月後）、12ヶ月（最終）に評価を行い、調査期間は一年を予定しています。研究期間は倫理委員会承認後から西暦2023年3月までとしています。

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	9ヶ月	12ヶ月
介入群 (長時間)	運動機能評価（測定） 栄養評価（質問票） 主観的自己効力感（質問票） 主観的幸福感（質問票）	運動機能評価 栄養評価 主観的自己効力感 主観的幸福感	運動機能評価 栄養評価 主観的自己効力感 主観的幸福感	運動機能評価 栄養評価 主観的自己効力感 主観的幸福感	運動機能評価 栄養評価 主観的自己効力感 主観的幸福感
	通常介入+健康支援（運動・栄養） 				

<方法>

3ヶ月ごとに身体、栄養、運動、気持ちに関する評価を行い、その間に運動と栄養に関してホームベース型健康支援の介入を行います。具体的な介入方法は、質問やフローチャートを用いて、その方の行動変容時期に合わせて行いたいことを選択してもらい、「前向きな態度」、「自己効力感」、「周囲からの支援」を行います。3ヶ月ごとに、選択された取り組みが継続できているか、変更が必要かなどを評価、見直しを行います。

<評価>

- | | | |
|------------------|----------------|--------------|
| 1. 基本情報 | 2. 運動機能評価（測定） | 3. 栄養評価（質問票） |
| 4. 主観的自己効力感（質問票） | 5. 主観的幸福感（質問票） | |

3. 予測される不利益と危険性

この研究において個人を特定できないように匿名化し、住所など正確な情報について記載しないように管理します。

4. この研究への参加と同意について

研究の参加への任意性と同意撤回の自由により、申し出があった場合は研究対象者から除外します。

5. プライバシーの保護への配慮

プライバシー保護のため、学会・論文等による発表において個人を特定する情報は排除します。

6. 結果の公表

本研究は九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻学位論文作成、日本地域理学療法士学会学術大会等で報告を予定しています。

6. 連絡先

研究担当者：ハーランド泰代

連絡先：千鳥橋病院 リハビリテーション技術部 在宅リハ科 通所リハビリ室

電話 092-651-9804

参考：1) 馬場園明：脱・メタボリックシンドロームのための健康支援、中央法規出版